

2025年7月号(特別号)  
No.7文責:歳田和子

### 【保護者様の思いに心より感謝です!】

日々お子様が成長されている姿を目の当たりにしています。さて、今回は、立ち話ではありましたがある保護者様の思いを聞かせていただく機会があり、その話にとても感銘を受けましたので紹介いたします。保護者様に「その思いを綴ってみませんか」と申しましたところ、最初は固辞されましたが、ご了承・ご寄稿いただきました。職員でも共有させていただきます。保護者様の思いを知ることで私たち職員は学びへとつながります。

皆様にも紹介したく今回は特別に配付させていただくことにしました。共感される方も多いのではないかと思います。お時間があるときには是非お読みいただければ幸いです。

(原文のまま掲載しております)

#### 【保護者様のご寄稿文】

入学して2ヶ月が過ぎ、息子は学校での生活にもすっかり慣れ、毎日学校で印象に残った出来事を楽しそうに教えてくれます。登下校は車で送迎していて玄関まで連れていく毎日でしたが、6月半ば頃、玄関より手前で『ここから一人で行くからもう帰っていいよ』と突然言わされました。表情を見ると真剣そのものだったので『わかった、行ってらっしゃい!』と声をかけ見送りました。その日の夜はバス通学している友達がどうやってバスに乗るのか、どこで乗ってどこで降りるのか等色々質問されました。1人で登下校していることに憧れているようでした。次の日の朝、送迎の車の中で『今日はママは駐車場に着いたら車から降りなくていいから、僕一人で行けるから大丈夫!』と話してきたのでせめて横断歩道の手前までは一緒にあって見送っていいかたずねると了解してもらえたのでその日から毎朝駐車場の横断歩道から一人で玄関まで行くようになりました。親が玄関まで見送ることに恥ずかしさを感じ始めたようです。



小6の三学期あたりから息子は家では一人、別の部屋でタブレットを見たりゲームをしたりして過ごす時間が長くなりました。私も家事や両親の介護に時間をとられ息子との会話が減っていることが気になり時間がある時はこちらから話しかけるよう心がけました。でも『んー忘れた』『ちょっとそれは話せない』などまともな会話にはならず…

ふとその時"反抗期"かな?と感じたのであまり根掘り葉掘り聞かない方がいいかな、、と思いつつもふんわりと不安だけが残りました。それはきっと息子に知的な障がいがあって支援学校に通っているのだから親として生きているうちはいろいろ教えて手助けするのが私の役目なのではないかと思っていたからだと思います。

ある日の登校前"出かける前はトイレに行ってね、ハンカチも忘れずにね"と声をかけました。なかなか動かないのでもう一度言いました。それでも動かないで聞こえてないんだと思い、もう一度言うと重い腰をあげ動き始めました。するとトイレに行きながら小声で『うるさいんだよっ!!何回も何回も言われなくともわかってるって!!!』と反発する声が聞こえたのです……ビックリしました。。

その言葉が強く心に刺さり、同時に今までとは違う息子の姿にハッとさせられました。いつもならその言葉に対して躊躇だからと叱りつけていたと思いますが、その時ばかりは"あなたが間違ってるんだよ"と誰かが肩を叩いて教えてくれたような気がしました。

その日はずっと息子の言葉が頭から離れず、悩み、考えてました。  
朝起きて、偏食のある息子に給食までお腹が空かないように朝食を食べるよう急かし、忘れ物して困らないように先回りして準備し…学校に遅刻しないように急かしていた私。  
振り返ってみると、そのことに限らず今までの子育てで私が当たり前のようにやっていたことはおそらく子どものためというより我が子のことが心配でたまらないという"私の不安"を解消するためにやっていたのだと気づきました。

私の都合で子育てをしてきた自分、その自分の姿を思い起こすととても恥ずかしく、もっと早く気づいていればという後悔からしばらくは落ち込みました。でもそんな時でも子どもの成長は待ったなし。時間がもったいない、悪いのは私、私が変わらないと!と気持ちを新たに子育てをやり直そうと思いました。(この歳になると、体調不良も多く、病気や事故でこの世を去る日が今日かもしれない)常日頃思っているので時間の大切さが身に染みます……)

私は人生の半分を過ぎ、3人目の子育てをしているのに今頃こんなことに気づくなんて、と言われても仕方ないのですが、息子のおかげで自分の間違った子育てに気づけたことは本当にありがとうございました。

ふりかえってみると息子が小さい頃は発語も遅く癪持ちで一緒に外出することも難しいほど多動で、ただただキツかった思い出しかないのでそれはきっと私の都合で息子を動かそうとして、彼の行動を理解しようとせずに勝手にきついと思い込んでいたんですね。

これを書いていて思い出しました。『ママ、笑って!(\*'・`\*)』と笑って見せて貰いました…

その時は我に返って反省し泣いていたと思います、息子に申し訳なくて。

最近は『自分でやるから!心配せんでいいけん!』とよく言われます。

私から見れば子どもですが、もう一人の"大人"として成長しているんだと実感させられます。とはいえる頭の中で思うことを行動に移すのはこの年齢になると本当に難しく自分自身をコントロールするのに四苦八苦しています。心配、不安、家事が進まない、遅刻してしまうなど心に余裕がない時は特に。

タブレットをみたら行動が進まない、言わなければ永遠に動かない、という現実も。

なので2人で相談して予定を決めて、その時間になつたら行動することを約束して、あとは本人の意思に任せて見守ることを心がけています。

例えば、遅刻したらその時に本人がどう思うか、宿題をせずに学校に行った時本人がどう思うか、失敗して初めて学ぶことがある、そうやって身についていくことがあるのだと私自身も一緒に学んでいきたいです。

もちろん人に迷惑をかけたり犯罪に繋がるような行動があれば全力でかかわります。

最近は大人になったら、

今住んでいる家の近くで階段のある家で一人暮らしがしたい、ローソンと映画館とマクドナルドで

働きたい、車の運転をしたいなど自分の夢を話すことが多くなり、その内容も日に日に具体的になってきています。おそらく学校でも作業が始まりそういった将来のことについて話を聞くことが増えているのかもしれません。その夢を叶えるためには学校での勉強や作業を頑張ること、家でもお手伝いをして頑張ることが大事だと私の気持ちを伝え、あとは息子がどう考えて行動するのか見守っています。

干渉しすぎないようにと決めてから、よく観察していると時間はかかるんですが決められた時間までにちゃんとやり終えるようになってきています。そして時計をよく見るようになりました。

ちょうど学校では行動する時間をタイマーを使って確認するようにしているらしくタイミングがよかったです。

お手伝いでは品出しと言って買い物してきたものを指定の場所に並べたり、食事の配膳をしてくれたり、気づいてやってくれます。配膳に関しては6年生の時に配膳の手伝いをしていたことが自信に繋がったようです。

入学したての頃はほぼ毎朝お腹が痛いといい遅れて登校したり休み時間は廊下やトイレで過ごしたりしていた息子でしたが、先生方が息子の気持ちに寄り添い細かな配慮を続けてくださったおかげで先生方に信頼を寄せ安心して過ごすようになりました。そこからの息子の気持ちの変化は目まぐるしく、僕だけの世界から僕と先生と友だちの世界へと一気に視野が広がり、毎日『僕は忙しいんだよ!』と言いながら登校し、帰ってくるとその日あったことを楽しそうに話してくれます。息子の笑顔がいちばん嬉しいです!

それから駐車場から一人で行くと決めた息子の気持ちを自力通学への一歩につなげていきたいので、涼しくなったらバスを使って登校する練習を一緒にしていこうと思っています。

#### 最後に

今まで私はが選んだ道を歩かせてきました。これからは進む道を息子が自分で選ぶ姿を見守り、途中で止まった時は応援し、助けを求めてきたたくさんの選択肢を前に一緒に悩み、踏み出す背中をそっと押して支えられる親でありたい、これが私の目標です。

以上が保護者様のご寄稿文です。

お忙しい中にご寄稿いただきましたことに心より感謝申し上げます。

保護者様の思いをしっかりと受け止め、協力し合いながら子どもたちの成長を見守っていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

さて、子どもたちは、あと1週間ほどで夏休みに入ります。

夏やすみにしかできないお手伝いや旅行などたくさん思い出を作ってほしいと願っています。

また、9月1日全員が元気に登校してくれることを心よりお待ちしております。

保護者の皆様、夏休みこそ大変だと思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

※高等部棟新校舎のイメージを校長室だより6月号その2に掲載しております。

どうぞご覧ください。